

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 150

江戸川区立篠崎第三小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	-10	-10	-20	令和8年度の目標	-8.0	-8.0	-6.0	-4.0	-2.0	-5.0	-4.0	-8.0
令和7年度の結果	-12	-7	-19	令和7年度の結果	-6.7	-5.1	-2.9	-5.5	-4.6	-8.7	-3.9	0.7
令和6年度の結果	-14	-12	-26	令和6年度の結果	-9.2	-9.0	-6.1	-12.3	-4.9	-3.8	-10.7	-15.0
令和5年度の結果	-9	-7	-16	令和5年度の結果								

年度	令和7年度 成果と課題		令和8年度 目標		令和8年度 目標達成に向けた取組	
内容						
学校全体	【成果】 ○江戸川区Study Weekと関連した取組として実施した「家庭学習週間」において、目標とした「学年×10分」を全学年が達成できた。 【課題】 ○2年生以上が各学期2回ずつ取り組んでいる東京ベシックドリル診断テスト(4・5年生は江戸川区学力定着度調査)において、正答率7割達成者が70%以上を目標としていたが、全校平均が70%以上を達成することが一度もなかった。		○日々の学習習慣を身に付けさせる。 ○算数科における、既習事項の定着を図る。		○ドリルパークを日常的に活用する。 ○江戸川区Study Weekと関連した取組として、「家庭学習週間」を各学期に2週間ずつ実施する。また、家庭学習の例示を行う。 ○「家庭学習週間」において、「学年×10分」の学習時間を目標とする。 ○2年生以上は、各学期2回ずつ「東京ベシックドリル診断テスト(4・5年生は江戸川区学力定着度調査)」を実施する。また、正答率7割達成者の全校平均70%以上を目標とする。	
第1学年	【成果】 ○「家庭学習週間」において、年間3回の取組全てで目標を達成することができた。 【課題】 ○「家庭学習週間」において、年間3回の取組全てにおいて、取組カードの未提出者割合が3割近くあった。		○学期ごとに実施する「家庭学習週間」において、1日の平均学習時間10分を達成させる。また、未提出者割合1割以下を目指す。		○朝学習でドリルパークを活用する。	
第2学年	【成果】 ○「家庭学習週間」において、年間3回の取組全てで目標を達成することができた。 ○「東京ベシックドリル診断テスト」において、年間6回全てで目標を達成することができた。 【課題】 ○「家庭学習週間」において、1・3学期の取組カードの未提出者割合が3割近くあった。		○学期ごとに実施する「家庭学習週間」において、1日の平均学習時間20分を達成させる。また、未提出者割合1割以下を目指す。 ○各学期2回ずつ実施する「東京ベシックドリル診断テスト」において、正答率7割達成者が80%以上を目標とする。また、平均正答率は80%以上を目標とする。		○朝学習、週末課題でドリルパークを活用する。 ○学力向上担当が、「東京ベシックドリル診断テスト」の結果を分析し、ドリルパークを活用して既習事項の定着を図る。 ○週に一度の学級担任による補習を実施する。	
第3学年	【成果】 ○「家庭学習週間」において、3学期の取組の結果が目標+10分以上を達成することができた。 ○「東京ベシックドリル診断テスト」において、年間6回全てで目標を達成することができた。 【課題】 ○「家庭学習週間」において、学年の学習時間の平均に対する未提出者の割合が高かった。		○学期ごとに実施する「家庭学習週間」において、1日の平均学習時間30分を達成させる。また、未提出者割合1割以下を目指す。 ○各学期2回ずつ実施する「東京ベシックドリル診断テスト」において、正答率7割達成者が80%以上を目標とする。また、平均正答率は80%以上を目標とする。		○朝学習、週末課題でドリルパークを活用する。 ○学力向上担当が、「江戸川区学力定着度調査」の結果を分析し、ドリルパークを活用して既習事項の定着を図る。 ○週に一度の学級担任による補習を実施する。	
第4学年	【成果】 ○「家庭学習週間」において、1・3学期の取組の結果が目標を達成することができた。 【課題】 ○「家庭学習週間」において、3学期の取組カードの未提出者割合が2割近くあった。 ○「江戸川区学力定着度調査」において、7月問題と1月問題に取り組んだ際の目標達成者の割合が低く、学年の学習内容の定着度が低かった。		○学期ごとに実施する「家庭学習週間」において、1日の平均学習時間40分を達成させる。また、未提出者割合1割以下を目指す。 ○各学期2回ずつ実施する「江戸川区学力定着度調査」において、正答率7割達成者が60%以上を目標とする。また、平均正答率は60%以上を目標とする。		○朝学習、週末課題でドリルパークを活用する。 ○学力向上担当が、「江戸川区学力定着度調査」の結果を分析し、ドリルパークを活用して既習事項の定着を図る。 ○EDOスク事業者と連携し、個に応じた学習内容の定着を図る。 ○週に一度の学級担任による補習を実施する。	
第5学年	【成果】 ○「家庭学習週間」において、年間3回の取組全てにおいて目標を達成することができ、さらに3学期は目標+10分以上を達成することができた。 ○「家庭学習週間」において、年間3回の取組全てにおいて未提出者の割合が1割を切った。 【課題】 ○「江戸川区学力定着度調査」において、7月問題と1月問題に取り組んだ際の目標達成者の割合が低く、学年の学習内容の定着度が低かった。		○学期ごとに実施する「家庭学習週間」において、1日の平均学習時間50分を達成させる。また、未提出者割合1割以下を目指す。 ○各学期2回ずつ実施する「江戸川区学力定着度調査」において、正答率7割達成者が60%以上を目標とする。また、平均正答率は60%以上を目標とする。		○朝学習、週末課題でドリルパークを活用する。 ○学力向上担当が、「江戸川区学力定着度調査」の結果を分析し、ドリルパークを活用して既習事項の定着を図る。 ○EDOスク事業者と連携し、個に応じた学習内容の定着を図る。 ○週に一度の学級担任による補習を実施する。	
第6学年	【成果】 ○「家庭学習週間」において、3学期の取組の結果が目標を達成することができた。 【課題】 ○「家庭学習週間」において、年間3回の取組全てにおいて、取組カードの未提出者割合が2割近くあった。 ○「東京ベシックドリル診断テスト」において、年間6回の最終回でも目標を達成することができなかった。		○学期ごとに実施する「家庭学習週間」において、1日の平均学習時間60分を達成させる。また、未提出者割合1割以下を目指す。 ○各学期2回ずつ実施する「東京ベシックドリル診断テスト」において、正答率7割達成者が60%以上を目標とする。また、平均正答率は60%以上を目標とする。		○朝学習、週末課題でドリルパークを活用する。 ○学力向上担当が、「東京ベシックドリル診断テスト」の結果を分析し、ドリルパークを活用して既習事項の定着を図る。 ○EDOスク事業者と連携し、個に応じた学習内容の定着を図る。 ○週に一度の学級担任による補習を実施する。	